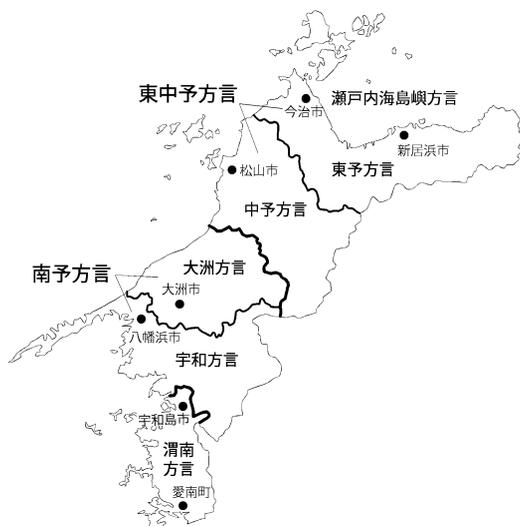


愛媛県大洲方言



愛媛県方言区画図

【愛媛県の方言区画】杉山（1964）によると、愛媛県の方言は、語彙、アクセント、母音融合の有無などによって大きく4区画に区分される。すなわち、瀬戸内海島嶼方言・東中予方言・南予方言・滑南方言の4区画である（「愛媛県方言区画図」参照）。4区画のうち、東中予方言は東予方言と中予方言に、南予方言は大洲方言と宇和方言に、それぞれ下位区分される。

愛媛県方言の各区分における文法的特徴は、武智（1957）、杉山（1961,1964）、江端（1998）や、『活用体系（3）』所収「愛媛県松山市方言」（久保2018）などを参照されたい。

【大洲方言について】本論文の調査対象である大洲方言は、前節と「愛媛県方言区画図」で示した愛媛県方言4区画のうち、南予方言の下位区分である。杉山（1964:455）によると、大洲方言は「伊予郡の双海・中山・広田、上浮穴郡の小田、西宇和郡の保内町の一部〈旧磯津村・日土村〉と喜多郡とをあわせた地域の方言」である。この区画は2021年現在の行政区分でいうと、伊予市双海町・伊予市中山町・砥部町広田村・八幡浜市保内町の一部・内子町・大洲市に該当する。

文法的特徴については、特に名詞アクセントに関する研究が多くある。先行研究では、頭高一型アクセント説と無アクセント（平板一型・崩壊一型）説の2つがある。前者は金田一（1940, 1977）、平山（1940）、生田（1951）、武智（1968）、後者は山名（1956）、平山（1957）、清水（1995, 2010）が採用している。どちらが妥当であるか、前者と後者は通時的に異なる段階であるのかなど、一致した見解はない。

名詞アクセント以外について、主な先行研究を以下に示す。語彙については、堀（1886）、大洲市誌編纂会（編）（1996）などがある。前述した名詞アクセント以外のプロソディーに関しては、藤原（1952）、山口（1996）がある。以上のほかに、現在の大洲市長浜町櫛生の方言文法を記述した藤原（1973）、文法事項の調査結果を言語地図にまとめた岸江ほか（編）（2008）がある。

【調査概要】本論文で示すデータは、筆者による調査票調査の結果、筆者が収録した自然談話の発話内容である。それぞれについて、以下に詳細を示す。

筆者による調査票調査の協力者は、1932年生まれ女性（KK氏）・1938年生まれ男性（DN氏）・1941年生まれ男性（SK氏）の3名である。3氏はいずれも、言語形成期（3～15歳）とそれ以降の殆どの年数を、大洲市で生活している。この調査票調査は、2019年8～11月に現地で、2021年6～12月に電話で実施した。

筆者が収録した自然談話は、合計約90分間分である。KK氏を含む3名によるKK氏の青年期に関する会話（約45分間）と、DN氏・SK氏を含む3名による大洲市の歴史に関する会話（約45分間）である。この自然談話は、2019年6月に現地で収録したものである。

愛媛県大洲方言の活用表

《動詞》

		多段型 書く	多段特殊型 いぬる	一段型 見る	来る	する
終 止 類	断定非過去	カク	イヌル	ミル	クル	スル
	断定過去	カイタ	インダ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケ	イネ	ミー	コイ	セー
	禁止	カクナ	イヌルナ	ミナ	クナ	スナ
	意志	カコ (-)	イノ (-)	ミヨ (-)	コー	ショー
	推量	カクジャロ (-)	イヌルジャロ (-)	ミルジャロ (-)	クルジャロ (-)	スルジャロ (-)
接 続 類	連体非過去	カク	イヌル	ミル	クル	スル
	連体過去	カイタ	インダ	ミタ	キタ	シタ
	中止	カITE	インデ	ミテ	キテ	シテ
	仮定	カITアラ	インダラ	ミタラ	キタラ	シタラ
派 生 類	否定	カカン	イナン	ミン	コン	セン
	丁寧	カキマス	イニマス	ミマス	キマス	シマス
	使役	カカス	イナス	ミサス	コサス	サス
	受身	カカレル	イナレル	ミラレル	コラレル	サレル
	可能	カケル	イネル	ミレル ミラレル	コレル コラレル	《デキル》
	尊敬	カキナハル オカキル	イニナハル オイニル	ミナハル オミル	キナハル 《オイデル》	シナハル オシル
	継続	カキヨル カイトル	イニヨル インドル	ミヨル ミトル	キヨル キトル	シヨル シトル
	希望	カキタイ	イニタイ	ミタイ	キタイ	シタイ
	のだ	カクン (ジャ)	イヌルン (ジャ)	ミルン (ジャ)	クルン (ジャ)	スルン (ジャ)

多段型動詞の基幹音便形

語幹末 子音	語例	活用形例 (過去形)	作り方
k	書く kak·u	カイタ	kをiにする。ik·u「行く」はkをQ(促音)にする。
g	漕ぐ kog·u	コイダ	gをiにする。-タを-ダにする。
s	出す das·u	ダシタ	音便形をとらず、イ段基幹に-タが後続する。
t	立つ tat·u	タッタ	tをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin·u	シンダ	nをN(撥音)にする。-タを-ダにする。
b	飛ぶ tob·u	トンダ	bをN(撥音)にする。-タを-ダにする。
m	飲む nom·u	ノンダ	mをN(撥音)にする。-タを-ダにする。
r	切る kir·u	キッタ	rをQ(促音)にする。
w	買う ka(w)·u 思う omo(w)·u	コータ オモ (-) タ	wに先行する母音によって異なる。詳細は本文§1〈断定過去形〉の節を参照。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か (だ)	先生 (だ)
終 止 類	断定非過去	アカイ	シズカ (ジャ) シズカナ	センセー (ジャ)
	断定過去	アカカッタ	シズカジャッタ シズカナカッタ	センセージャッタ
	推量	アカイジャロ (一) アカカロ (一)	シズカジャロ (一) シズカナカロ (一)	センセージャロ (一)
接 続 類	連体非過去	アカイ	シズカナ	センセーノ
	連体過去	アカカッタ	シズカジャッタ	センセージャッタ
	中止	アコーテ	シズカデ	センセーデ
	仮定	アカカッタラ	シズカジャッタラ シズカナカッタラ シズカナラ	センセージャッタラ センセーナラ
派 生 類	否定	アコー ナイ	シズカジャ ナイ シズカデ ナイ	センセージャ ナイ センセーデ ナイ
	なる	アコー (ニ)	シズカニ シズカン	センセーニ センセーン
	副詞	アコー (ニ)	シズカニ	(該当形 欠)
	丁寧	アカイデス	シズカ (ナ) デス	センセーデス
	のだ	アカイン (ジャ)	シズカナン (ジャ)	センセーナン (ジャ)

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」)と基幹一段型(以下「一段型」)がある。多段型にはa類のうち「書く」「居る」類、一段型にはb類(「見る」「起きる」「開ける」類)動詞が所属する。

多段型には、ア・イ・ウ・エ・オ段の5種類で終わる基幹(以下「ア段基幹」「イ段基幹」「ウ段基幹」「エ段基幹」「オ段基幹」と音便基幹がある。カク/kak-/「書く」を例に、それぞれの基幹をもつ語形を以下に示す。ア段形は、否定非過去形カカン「書かない」などがある。イ段形は、願望非過去形カキタイ「書きたい」、継続非過去形カキヨル「書いている」などがある。ウ段形は、禁止形カクナ「書くな」などがある。エ段形は、命令形カケ「書け」などがある。オ段形は、意志形カコ(一)「書こう」がある。基幹音便形は、断定過去形カイタ「書いた」、仮定形カイタラ「書けば」などがある。多段型動詞の語幹

末子音には、k(カ行)・g(ガ行)・s(サ行)・t(タ行)・b(バ行)・n(ナ行)・m(マ行)・r(ラ行)・w(ワ行)がある。語幹の具体例は、前掲の表「多段型動詞の基幹音便形」を参照されたい。多段型の特殊なものとして、上述の語幹末 n(ナ行)のイヌル/in(u)-/「帰る」がある。断定過去形インダ「帰った」・命令形イネ「帰れ」などでは多段型と同じ形態構造となる。一方、断定非過去形イヌル「帰る」および禁止形イヌルナ「帰るな」では、ウ段基幹に接辞が後続するという一段型と同じ振る舞いをする。以上のように、イヌル「帰る」は、部分的に古典日本語の「ナ行変格活用」の特徴を持つ。ただし、シヌ/sin-/「死ぬ」は、どの語形においても語幹末がn(ナ行)の多段型である。

一段型には、語幹末母音が/i/または/e/のものがある。前者はいわゆる上一段、後者はいわゆる下一段に該当する。前者の例は、ミル/mi-/「見る」・オキル/oki-/「起きる」、後者の例は、ネル/nc-/「寝る」・

アケル/ake-/「開ける」がある。一段型動詞語幹キル/ki-/「着る」について、音便が生じる接辞(過去-タ、中止-テ、仮定-タラ)が後続するときは、基幹末母音を長音化することが可能である(例: キ(一)タ「着た」)。これは、他の一段型動詞には生じず、キル/ki-/「着る」においてのみ語彙的に生じるものである(藤原 1973)。日本語諸方言では、一段型の語幹が多段型の r 語幹と同様の形態論的振る舞いをする、r 語幹化(ラ行五段化)がみられる方言がある。隣接する宇和方言でも r 語幹化形式が報告されているが(野林 1970)、大洲方言において r 語幹化は生じず、意志形・ア段形・イ段形・基幹音便形で r 語幹化形式は許容されない。

不規則型動詞として、クル「来る」・スル「する」がある。クル「来る」は、オ・イ・ウ段で終わる基幹がある。語形には、断定過去形キタ「来た」、断定非過去形クル「来る」、否定非過去形コン「来ない」、意志形コー「来よう」、命令形コイ「来い」などがある。スル「する」は、エ・イ・ウ・ア段で終わる基幹がある。語形には、否定非過去形セン「しない」、断定過去形シタ「した」、断定非過去形スル「する」、使役形サス「させる」などがある。

(2) 各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

多段型動詞では、基幹ウ段形である。(例: カク「書く」)。これは、語幹に非過去接辞/-ru/ が後続した後、接辞頭子音/r/ が脱落すると分析できる(例: カク「書く」←/kak-ru/)。多段特殊型イヌル/in(u)-「帰る」は、ウ段基幹に非過去接辞-ルが後続する。

一段型動詞では、基幹(=語幹)に非過去接辞-ルが後続する(例: ミル「見る」)。

不規則型動詞では、ウ段基幹に非過去接辞-ルが後続する(クル「来る」、スル「する」)。

- ・アシタ テガミオ カクケンノー。(明日手紙を書くからね。)
- ・イヌルゾ。(帰るよ。)
- ・テレビ ミルゼ。(テレビを見るよ。)
- ・アシタ タローガ オーズニ クル。(明日太郎が大洲にくる。)
- ・キョーワ シゴト スルゾ。(今日は仕事をすよ。)

〈断定過去形〉

多段型動詞では、音便基幹に過去接辞-タ/-ta/ が後続する。語幹末子音ごとの基幹音便形は、表「多段型動詞の基幹音便形」を参照されたい。ここでは、語幹末子音がw(ワ行)の基幹音便形(断定過去形)の形成方法を詳述する。このとき、語幹末子音とそれに先行する母音が交替して、音便基幹を形成する(下表参照)。

語幹末母音	交替後	動詞語形例(断定過去形)
a	oo	コータ「買った」
i	juu	ユータ「言った」
u	uu	クータ「食べた」
o	oo	オモ(一)タ「思った」

これは、語幹末子音/w/ が母音 u に交替した後、語幹末子音の直前にある母音と、先に交替した母音 u が同化して長母音となり、そこに過去接辞/-ta/ が後続すると分析できる(例: コータ「買った」←/kaw-ta/)。

なお、動詞語幹のモーラ数が偶数のとき、同化後の長母音を短母音化することが可能である(例: オモ(一)タ「思った」、チゴ(一)タ「違った」)。一方、動詞語幹のモーラ数が奇数のときは、短母音化することはできない(例: コータ「買った」、マチゴータ「間違えた」)。

一段型動詞では、基幹に過去接辞-タが後続する(例: ミタ「見た」)。

不規則型動詞では、イ段基幹に過去接辞-タが後続する(キタ「来た」、シタ「した」)。

- ・キニョー タローワ テガミオ カイタゼ。(昨日太郎は手紙を書いたよ。)
- ・キニョーワ テレビ ミタヨ。(昨日はテレビを見たよ。)
- ・キノー タローワ オーズニ キタ。(昨日太郎は大洲に来た。)
- ・キノーワ シゴト シタ。(昨日は仕事をした。)

〈命令形〉

多段型動詞では、基幹エ段形である(例: カケ「書け」)。これは、語幹に命令接辞/-e/ が後続すると分析できる(例: カケ「書け」←/kak-e/)。

一段型動詞では、基幹長音形となる(例: ミー「見る」、ネー「寝ろ」)。これは、語幹に命令接辞/-i/ が

後続した後、基幹末母音と接辞の母音/i/ が同化すると分析できる(例: ミー「見ろ」←/mi-i/, ネー「寝ろ」←/ne-i/)。

不規則型動詞について、「来る」ではオ段基幹に命令接辞-イが後続する。「する」ではエ段基幹長音形である(コイ「来い」、セー「しろ」)。後者は、エ段基幹に命令接辞-/i/ が後続した後、基幹末母音/e/ と接辞の母音/i/ が同化すると分析できる(セー「しろ」←/s·e-i/)。

上述の命令形のほかに、命令を表す動词语形には、現時点では次の3つがある。一つ目は、西日本諸方言にみられるいわゆる連用形命令である。多段型動詞ではイ段基幹(これがいわゆる連用形)によって命令を表す。一段型動詞の基幹(非長音形)、不規則型動詞のイ段基幹が命令を表すかどうかは、現時点で不明である。二つ目は、いわゆるテ形命令である。後述する中止形を用いることで命令を表す。三つ目は、後述する否定非過去形に疑問助詞=カを後続する形式である。これらの形式について、待遇の観点などからどのように使い分けられるかは、現時点で不明である。

命令形、連用形命令の語形、テ形命令の語形には、終助詞=ヤが後続する場合がある。=ヤは、以上の命令を表す語形(命令形、連用形命令の語形、テ形命令の語形)、禁止形、意志形が勧誘を表すときにのみ後続する終助詞である。すなわち、発話の命題が真となるよう話し手に要求する場合に出現可能な終助詞であるといえる。

- ・シャンシャン カケヤ。(早く書け。)
- ・コッチ ミーヤ。(こちらを見ろ。)
- ・ハヨー コイ。(早く来い。)
- ・シゴト セー。(仕事をしろ。)

〈禁止形〉

多段型動詞ではウ段基幹に、一段型動詞では基幹に、不規則型動詞ではウ段基幹に、禁止接辞-ナが後続する。終助詞=ヤが後続する場合がある(=ヤについては、〈命令形〉の節を参照)。

- ・イマワ テガミオ カクナヤ。(今は手紙を書くな。)
- ・アッチ ミナヤ。(あちらを見るな。)
- ・コッチ クナ。(こっちに来るな。)
- ・イマワ シゴト スナ。(今は仕事をするな。)

〈意志形〉

多段型動詞では、オ段(長音)形である(例: カコ(一)「書こう」)。これは、語幹に意志接辞/-o(R)/ が後続すると分析できる(例: カコ(一)「書こう」←/kak-o(R)/)。

一段型動詞では、基幹にヨ(一)が後続する(例: ミヨ(一)「見よう」、ネヨ(一)「寝よう」)。これは、意志接辞/-o(R)/ が後続し、接辞初頭に子音jが挿入されると分析できる(例: ミヨ(一)「見よう」←/mi-o(R)/、ネヨ(一)「寝よう」←/mi-o(R)/)。

不規則型動詞について、「来る」はオ段長音形コー「来よう」、「する」はショー「しよう」となる。これは、「来る」はオ段基幹に、「する」はエ段基幹に、意志接辞-/u/ が後続した後、語幹末母音と接辞の母音/u/ が同化すると分析できる(コー「来よう」←/k·o-u/、ショー「しよう」←/s·e-u/)。

意志形は勧誘の機能もちうる。意志形が勧誘を表すとき、終助詞=ヤが後続する場合がある(=ヤについては、〈命令形〉の節を参照)。

- ・イッショニ テガミ カコーヤ。(一緒に手紙を書こう。)
- ・アシタ テレビ ミヨ。(明日テレビを見よう。)
- ・マタ イッショニ マツヤマエ コーヤ。(また一緒に松山に来よう。)
- ・イッショニ シゴト ショー。(一緒に仕事をしよう。)

〈推量形〉

断定形に、後述する繫辞推量形=ジャロ(一)が後続する。

- ・タローワ アシタ テガミ カクジャロ。(太郎は明日手紙を書くだろう。)
- ・ハナコガ ミルジャロ。(「誰がこのテレビを見るのか」と聞かれて)花子が見るだろう。)
- ・モースグ クルジャロ。(もうすぐ来るだろう。)
- ・タローワ イツカラ シゴト スルジャロカ。(太郎はいつから仕事をするだろうか。)

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形式である。

- ・テガミオ カクトキワ エンピツデ カクゾ。(手紙を書くときは鉛筆で書くよ。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形式である。

- ・キノー ヒロータ ハッパワ アカカッタゼ。
(昨日拾った葉っぱは赤かったよ。)

〈中止形〉

多段型動詞では、音便基幹に中止接辞-テ/-te/ が後続する。これは、断定過去形と同様である（この詳細は、表「多段型動詞の基幹音便形」と〈断定過去形〉の節を参照）。一段型動詞では基幹に、不規則型動詞ではイ段基幹に、中止接辞-テが後続する。

- ・テガミオ カイテ トモダチニ オクツタイ。
(手紙を書いて、友達に送ったよ。)
- ・テレビオ ミテカラ オフロニ ハイル。(テレビを見てから、風呂に入る。)
- ・キノー タローワ オーズニ キテ キョーマツヤマニ カエツタ。(昨日太郎は大洲に来て、今日松山に帰った。)
- ・シゴトオ シテ イエニ モンタ。(仕事をし、家に帰った。)

〈仮定形〉

多段型動詞では、音便基幹に仮定接辞-タラ/-tara/ が後続する。これは、断定過去形と同様である（この詳細は、表「多段型動詞の基幹音便形」と〈断定過去形〉の節を参照）。一段型動詞では基幹に、不規則型動詞ではイ段基幹に、仮定接辞-タラが後続する。

- ・テガミ カイトラ ヘンジガ クルケンノー。
(手紙を書けば、返事が来るからね。)
- ・テレビオ チカクデ ミタラ メガ ワルーナルガ。(テレビを近くで見れば、目が悪くなるよ。)
- ・コッチニ キタラ ミンナニ アエルゼ。(こっちに来れば、みんなに会えるよ。)
- ・シゴト シタラ オカネワ モラエルゾ。(仕事をすれば、金はもらえるよ。)

〈否定形〉

否定非過去形について、多段型動詞はア段基幹に、一段型動詞は基幹に、不規則型動詞の「来る」はオ段基幹、「する」はエ段基幹に、否定非過去接辞-ンが後続する。

- ・ワシワ テガミワ カカンゼ。(私は手紙は書かないよ。)
- ・アシタワ テレビ ミンゼ。(明日はテレビを

見ないよ。)

- ・アシタ タローワ オーズニワ コンゼ。(明日太郎は大洲には来ないよ。)
- ・キョーワ シゴトワ セン。(今日は仕事はしない。)

否定非過去形をはじめ、否定の極性を含む動詞語形を、カク/kak-/「書く」を例に下表に示す。

否定非過去	カカン「書かない」
否定過去	カカナンダ・カカンカッタ 「書かなかった」
否定中止	カカンデ・カカズニ 「書かないで」
否定仮定	カカナンダラ・カカンカッタラ 「書かなければ」

〈丁寧形〉

丁寧断定非過去形について、多段型動詞はイ段基幹に、一段型動詞は基幹に、不規則型動詞はイ段基幹に、丁寧接辞-マスが後続する。

- ・テガミオ カキマス。((目上の聞き手に向かって)手紙を書きます。)
- ・マイニチ テレビ ミマス。((目上の聞き手に向かって)毎日テレビを見ます。)
- ・モースグ ハナコガ キマス。((目上の聞き手に向かって)もうすぐ花子が来ます。)
- ・ミンナガ アイサツオ シマス。((目上の聞き手に向かって)みんなが挨拶します。)

断定非過去形をはじめ、丁寧を含む動詞語形を、カク/kak-/「書く」を例に下表に示す。丁寧形は、多段型に準じる活用をする。

丁寧断定非過去	カキマス「書きます」
丁寧断定過去	カキマシタ「書きました」
丁寧否定非過去	カキマセン「書きません」
丁寧意志	カキマシヨ(一) 「書きましょう」

〈使役形〉

使役断定非過去形について、多段型動詞は、ア段基幹にスが後続する(例: カカス「書かせる」)。これは、語幹に使役接辞/-sas/ が後続した後に接辞頭子音/s/ が脱落し、そこに終止類・接続類の接辞が後続すると分析できる(例: カカス「書かせる」← /kak-sas-ru/)。

一段型動詞は、基幹にサスが後続する（例：ミサス「見させる」）。これは、語幹に使役接辞/-sas/、終止類・接続類の接辞が後続すると分析できる（例：ミサス「見させる」←/mi-sas-ru/）。

不規則型動詞の「来る」はオ段基幹にサス、「する」はア段基幹にスが後続する（コサス「来させる」、サス「させる」）。後者は、語幹/s-/に使役接辞/-sas/、終止類・接続類の接辞が後続すると分析できる（サス「させる」←/s-sas-ru/）。

- ・マイニチ コドモニ ニッキオ カカス。(毎日子どもに日記を書かせる。)
- ・マイニチ マドオ アケサス。(毎日窓を開けさせる。)

断定非過去形をはじめ、使役を含む動詞語形を、カク/kak-/「書く」を例に下表に示す。使役形は、多段型の活用をする。

使役断定非過去	カカス「書かせる」
使役断定過去	カカシタ「書かせた」
使役否定非過去	カカサン「書かせない」
使役否定過去	カカサナンダ・カカサンカッタ「書かせない」

〈受身形〉

多段型動詞は、ア段基幹にレルが後続する（例：カカレル「書かれる」）。これは、語幹に受身接辞/-rare/が後続した後に接辞頭子音/r/が脱落し、そこに終止類・接続類の接辞が後続すると分析できる（例：カカレル「書かれる」←/kak-rare-ru/）。

一段型動詞は、基幹に可能接辞-ラレルが後続する（例：ミラレル「見られる」）。

不規則型動詞の「来る」はオ段基幹に可能接辞-ラレルが、「する」はア段基幹にレルが後続する（コラレル「来られる」、サレル「される」）。後者は、語幹/s-/に受身接辞/-rare/、終止類・接続類の接辞が後続すると分析できる（サレル「される」←/s-rare-ru/）。

- ・タローワ センセーニ サキ ナマエ ヨバレタゼ。(太郎は先生に先ほど名前を呼ばれたよ。)
- ・イヌニ ジーット ミラレルンジャケン。(犬にじっと見られるのだから。)

断定非過去形をはじめ、受身を含む動詞語形を、カク/kak-/「書く」を例に下表に示す。受身形は、一段型の活用をする。

受身断定非過去	カカレル「書かれる」
受身断定過去	カカレタ「書かれた」
受身否定非過去	カカレン「書かれない」

〈可能形〉

多段型動詞は、エ段基幹に終止類・接続類の接辞が後続する（例：カケル「書くことができる」）。これは、語幹に可能接辞/-e/、終止類・接続類の接辞が後続すると分析できる（例：カケル「書くことができる」←/kak-e-ru/）。

一段型動詞は、基幹に可能接辞-ラレル・-レルが後続する（例：ミラレル・ミレル「見ることができる」）。

不規則型動詞について、「来る」は、オ段基幹に可能接辞-ラレル・-レルが後続する（コラレル・コレル「来ることができる」）。「する」は、動詞語幹デキル/deki-/「できる」による補充法を用いる。

- ・フデデ テガミモ カケルノヨ。(筆で手紙も書くことができるのだよ。)
- ・エーガカンデ {ミレル/ミラレル} ヨ。(映画館で見ることができるよ。)
- ・ミチ シットイデルケン {コレル/コラレル} ヨ。(道を知っていらっしやるので、来ることができるよ。)
- ・ヒトリデ デキルヨ。(一人でできるよ。)

〈尊敬形〉

尊敬形は2通りの形式がある。一つは、尊敬接尾辞-ナハル/-naha/を用いる形式である。多段型動詞はイ段基幹に、一段型動詞は基幹に、不規則型動詞はイ段基幹に後続する（例：カキナハル「お書きになる」、ミナハル「ご覧になる」、キナハル「いらっしやる」、シナハル「なさる」）。

もう一つは、尊敬接頭辞オ-を用いる形式である。多段型動詞はイ段基幹に、一段型動詞は基幹に、不規則型動詞の「する」はイ段基幹に先行する（例：オカキル「お書きになる」、オミル「ご覧になる」、オシル「なさる」）。尊敬接頭辞オ-が先行する動詞語幹にモ-ラ数の制限はないが、移動動詞クル「来る」・有生物存在動詞オル/or-/「いる」には先行できず、動詞語幹オイデル/oide-/「いらっしやる」による補充法を用いる。加えて、尊敬接頭辞オ-と尊敬接尾辞-ナハル/-naha/は同一語内に共起できない（宮岡2021a, b）。

- ・キニョー センサーワ テガミオ {オカキ
タ／カキナハッタ} ヨ。(昨日先生は手紙を
お書きになったよ。)
- ・センサーワ キニョー テレビ オミタ。(先
生は昨日テレビをご覧になった。)
- ・テンノーガ オーズニ オイデルヨ。(天皇が
大洲にいらっしゃるよ。)
- ・オポーサンワ シゴトオ {シナハル／オシ
ル}。(坊さんは仕事をする。)

〈継続形〉

多段型動詞はイ段基幹に、一段型動詞は基幹に、
不規則型動詞はイ段基幹に、ヨルが後続する。これ
は、継続接辞/-or/ が後続した後に接辞初頭に子音 j
が挿入され、そこに終止類・接続類の接辞が後続す
ると分析できる。

- ・イマ テガミオ カキヨルンヨ。(今手紙を書
いているのだよ。)
- ・テレビ ミヨルンヨ。(テレビを見ているのだ
よ。)
- ・ハナコサンガ キヨルゼ。(花子さんが来てい
るよ。)
- ・シゴト シヨルンヨ。(仕事をしているのだよ。)

〈希望形〉

多段型動詞はイ段基幹に、一段型動詞は基幹に、
不規則型動詞はイ段基幹に、希望接辞-タが後続する。
希望接辞-タには、形容詞語幹がとる接辞(後述 §2
【形容詞】を参照)が後続する。

- ・エンピツデ カキタイ。(鉛筆で書きたい。)
- ・テレビ ミタインジャガ。(テレビが見たいの
だけど。)
- ・マタ マツヤマニ キタイノー。(また松山に
来たいね。)
- ・テガミワ カカンデ デンワ シタイ。(手紙
は書かないで、電話したい。)

〈のだ形〉

連体形に、準体=ン・=ノが後続する。そこに、終
助詞(現時点で確認されているのは=ヨ・=ゼ・=ゾ)
か、繋辞断定非過去形=ジャが後続可能である。

- ・テガミ カキナガラ テレビ ミタンヨ。(手
紙を書きながらテレビを見たのだよ。)
- ・マド アケルンジャナー。(窓を開けるのだね。)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用の型は一つである。語幹末は母音で
あり、現時点でそれには/a/、/i/、/u/、/o/ がある。それ
ぞれの末母音をもつ形容詞の例を以下に挙げる。語
幹末/a/ はナイ/na-/「無い」・アカイ/aka-/「赤い」、
語幹末/i/ はオーキー/ooki-/「大きい」・スズシー
/suzusi-/「涼しい」、語幹末/u/ はアツイ/atu-/「暑い」・
サムイ/samu-/「寒い」、語幹末/o/ はコイ/ko-/「濃い」・
クロイ/kuro-/「黒い」がある。

中止形・否定形・なる形・副詞形において、語幹
末母音が交替することによって、交替語幹を形成す
る(下表参照)。

語幹末 母音	交替後	形容詞語形例 (副詞形)
a	oo	アコー「赤く」
i	juu	スズシュー「涼しく」
u	uu	サムー「寒く」
o	oo	クロー「黒く」

交替語幹形は、語幹に副詞化接辞-/u/ (否定形・なる
形・副詞形)や中止接辞-/ute/ (中止形)が後続した
後、語幹末母音と接辞頭母音/u/ が同化して形成さ
れると分析できる(例: アコー「赤く」←/aka-u/、
アコーテ「赤くて」←/aka-ute/)。

なお、西日本諸方言には、形容詞語幹単独で否定
形・なる形となる方言がある(例えば、愛媛県松山
市方言; 久保 2018)が、大洲方言でこれは容認され
ない。

語幹に非過去接辞-イが後続するとき、形態素境界
に Vi 連続が生じるが、同化は生じない。例えば、コ
イ/ko-/「濃い」の断定非過去形コイで同化は生じな
い。ただし、エー/jo-/「良い」の非過去形において
のみ、エー「良い」(←/jo-i/)と oi 連続の同化が生
じる(*エカッタ、*エカローなどの形式は容認され
ない)。

〈断定非過去形〉

語幹に非過去接辞-イが後続する。語幹末母音と接
辞母音/i/ との同化は生じない。

- ・アカイ ナー。(紅葉した山を見て)赤いな
あ。)

〈断定過去形〉

語幹に非過去接辞-カッタが後続する。

- ・キノー ヒロータ ハッパワ アカカッタゼ。
(昨日拾った葉っぱは赤かったよ。)

〈推量形〉

推量形には2通りの形式がある。一つは、断定形に後述する繫辞推量形=ジャロ(一)が後続する形式である。もう一つは、語幹に推量接辞-カロ(一)が後続する形式である。

- ・ムコーノ ホーノモ {アカイジャロー／アカカロー} ノー。(向こうのほうの(葉っぱ)も赤いだろうね。)

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形式である。

- ・アカイ ハー ヒロータゼ。(赤い葉っぱを拾ったよ。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形式である。

- ・アカカッタ トマトオ カウンヨ。(赤かったトマトを買うのだよ。)

〈中止形〉

交替語幹にテが後続する。これは、中止接辞-/ute/が後続した後、語幹末母音と接辞頭母音/u/が同化すると分析できる。

- ・コノ ハッパワ アコーテ オーキーノー。
(この葉っぱは赤くて大きいなあ。)

〈仮定形〉

語幹に仮定接辞-カッタラが後続する。

- ・ムコーノ ホーガ アカカッタラ モツテカエロカ。(向こうのほう(の葉っぱ)が赤かったら、持って帰ろうか。)

〈否定形〉

交替語幹形に形容詞の否定ナイ/na-/が後続する。

- ・キニョーワ アマリ アツクルシュー ナカッタノー。(昨日はあまりうるさくなかったなあ。)

〈なる形〉

交替語幹形にナル/nar-/「なる」が後続する。この交替語幹形には、与格助詞=ニが後続可能である。

- ・コノ トマトワ アコー(ニ) ナットルナー。(このトマトは赤くなっているなあ。)

〈副詞形〉

交替語幹形である。これには、与格助詞=ニが後続可能である。

- ・コレワ アコー(ニ) ソメルンヨ。(これは赤く染めるのだよ。)

〈丁寧形〉

断定形に丁寧繫辞断定非過去形=デスが後続する。

- ・コレ アカイデス。((目上の聞き手に対して)これは赤いです。)

断定非過去形以外の丁寧繫辞の形式については、【形容名詞述語・名詞述語】〈丁寧形〉の節を参照されたい。

〈のだ形〉

連体形に、準体=ン・=ノが後続する。そこに、終助詞(現時点で確認されているのは=ヨ・=ゼ・=ゾ)か、繫辞断定非過去形=ジャが後続可能である。

- ・マツタク ナインヨ。(全く無いのだよ。)
- ・ジブンデ ヤッタラ エーンジャ。(自分ですればいいのだ。)

【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞述語には、シズカジャッタ「静かだった」など、名詞述語に出現する繫辞(コピュラ、学校文法の「断定の助動詞」と同形式が出現する。それに加えて、形容名詞専用の繫辞がある。その断定非過去形は=ナ、断定過去形は=ナカッタ、推量形は=ナカロ(一)、仮定形は=ナカッタラである。また、連体非過去形について、形容名詞が先行する場合は=ナ、名詞が先行する場合は属格助詞=ノである。

〈断定非過去形〉

形容名詞には繫辞断定非過去形=ジャ・=ナが、名詞には繫辞断定非過去形=ジャが後続する。

- ・キョーワ シズカ {ジャ／ナ} ノー。(今日は静かだなあ。)

- ・アレ センセージャ。(あれは先生です。)

〈断定過去形〉

形容名詞には繫辞断定過去形=ジャッタ・=ナカッタが、名詞には繫辞断定過去形=ジャッタが後続する。

- ・キニョーモ シズカ {ジャッタ／ナカッタ} ノー。(昨日も静かだったなあ。)

- ・ムカシワ センセージャッタンヨ。(昔は先生だったのだよ。)

〈推量形〉

形容名詞には繫辞推量形=ジャロ(一)・=ナカロ

(一) が、名詞には繫辞推量形=ジャロ (一) が後続する。

- ・ムコーノ ヘヤワ シズカ {ジャロー / ナカロー}。(向こうの部屋は静かだろう。)
- ・アノ ヒトワ センセージャロナー。(あの人は先生だろう。)

〈連体非過去形〉

形容名詞には繫辞連体非過去形=ナ、名詞には属格助詞=ノが後続する。

- ・イマ シズカナ ヘヤニ オルンヨ。(今静かな部屋にいるのだよ。)
- ・キニョー センセーノ トモダチニ オータンヨ。(昨日先生である友達に会ったのだよ。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形式である。

- ・キョネンマデ センセージャッタ ヒトニ オータノヨ。(去年まで先生だった人に会ったのだよ。)

〈中止形〉

形容名詞・名詞に繫辞中止形=デが後続する。

- ・コノ ヘヤワ シズカデ ヒロイゼ。(この部屋は静かで広いよ。)
- ・コチラワ ハナコサンデ センセーナンデス。(こちらは花子さんと、先生なのです。)

〈仮定形〉

形容名詞には繫辞仮定形=ジャッターラ・=ナクッターラ・=ナラ、名詞には繫辞仮定形=ジャッターラ・=ナラが後続する。

- ・シズカ{ジャッターラ / ナクッターラ / ナラ} ネムレルノニノー。(静かだったら、眠れるのになあ。)
- ・アノ ヒト センセー {ジャッターラ / ナラ} ガッコー ハイラジャロナー。(あの人が先生だったら、学校に入るだろうね。)

〈否定形〉

形容名詞・名詞に、繫辞断定非過去形=ジャ・繫辞中止形=デが後続する。そこに形容詞の否定ナイ /na-/ が後続する。

- ・アンマリ シズカジャ ナイノー。(あまり静かではないなあ。)
- ・アノ ヒト センセージャ ナイゼ。(あの人は先生ではないよ。)

〈なる形〉

形容名詞・名詞に与格助詞=ニ・=ンが後続する。そこにナル/nar-/「なる」が後続する。

- ・シズカ {ン / ニ} ナッタノー。(静かになったなあ。)
- ・サブローサンワ センセーニ ナンナハッタノヨ。(三郎さんは先生になりなされたのだよ。)

〈副詞形〉

形容名詞に与格助詞=ニが後続する。

- ・イエノ ナカデワ シズカニ オハナシヤ。(家の中では静かに話さない。)

〈丁寧形〉

形容名詞・名詞に丁寧繫辞断定非過去形=デスが後続する。形容名詞の場合、繫辞断定非過去形=ナにも後続可能である。

- ・ムコーノ ヘヤノ ホーガ シズカ {デス / ナデス} ヨ。(目上の聞き手に対して) 向こうの部屋のほうが静かですよ。)
- ・ハナコワ センセーデス。(目上の聞き手に対して) 花子は先生です。)

断定非過去形をはじめ、丁寧繫辞の形式を下表に示す。

丁寧繫辞断定非過去	=デス
丁寧繫辞断定過去	=デシタ
丁寧繫辞推量	=デシヨ (一)

〈のだ形〉

形容名詞・名詞に、繫辞連体形と準体=ン・=ノが後続する。そこに、終助詞(現時点で確認されているのはヨ・=ゼ・=ゾ)か、繫辞断定非過去形=ジャが後続可能である。

- ・アノ ヒトワ センセーナンヨ。(あの人は先生なのだよ。)
- ・コチラワ マダ ガクセーナンジャ。(こちらの人はまだ学生なのだ。)

付記

本研究は、JSPS 科研費 20H00015 に加え、19H01255、21J21555 の助成を受けている。

参考文献

- 生田早苗 (1951) 「近畿アクセント圏境界地区の諸アクセントについて」寺川喜四男・金田一春彦・稲垣正幸 (編) 『国語アクセント論叢』 255-346. 法政大学出版局.
- 江端義夫 (1998) 「愛媛県の方言」日野資純・飯豊毅一・佐藤亮一 (編) 『講座方言学 8 中国・四国地方の方言』 395-423. 国書刊行会.
- 大洲市誌編纂会 (編) (1996) 『大洲市誌 増補改訂 上』大洲市誌編纂会.
- 岸江信介・津田智史・坂東正康・岡部修典・越智彩乃・玉井紗也香 (編) (2008) 『大洲のことば』徳島大学国語学研究室.
- 金田一春彦 (1940) 「国語アクセントの地方的分布」国語教育学会 (編) 『標準語と国語教育』 59-100.
- 金田一春彦 (1977) 「アクセントの分布と変遷」柴田武 (編) 『岩波講座日本語 11 方言』 128-180. 岩波書店.
- 久保博雅 (2018) 「愛媛県松山市方言」方言文法研究会 (編) 『全国方言文法辞典資料集 (4) 活用体系 (3)』 87-95. 方言文法研究会.
- 清水誠治 (1995) 「愛媛県南予地方における 2 モーラ名詞アクセントの分布と変遷」『国語学』 181: 43-56.
- 清水誠治 (2010) 「愛媛にみるアクセント分布の多様性」上野善道 (編) 『日本語研究の 12 章』 429-443. 明治書院.
- 杉山正世 (1961) 「方言の実態と共通語化の問題点 10 愛媛」遠藤嘉基 (編) 『方言学講座 3 西部方言』 340-368. 東京堂出版.
- 杉山正世 (1964) 「愛媛県の方言区画」日本方言研究会 (編) 『日本の方言区画』 446-458. 東京堂出版.
- 武智正人 (1957) 『愛媛の方言: 語法と語彙』愛媛大学地域社会総合研究所.
- 武智正人 (1968) 「肱川流域の方言アクセントについて」『愛媛国文研究』 18: 66-72.
- 野林正路 (1970) 「方言研究の新しい地平 一 弁証法的な記述様式の確立をめざして」平山輝男博士還暦記念会 (編) 『方言研究の問題点』 319-355. 明治書院.
- 平山輝男 (1940) 「四国アクセントとその境界線」『音声学協会会報』 64: 9-19.
- 平山輝男 (1957) 『日本語音調の研究』明治書院.
- 藤原与一 (1952) 「方言「文アクセント」の研究」寺川喜四男・金田一春彦・稲垣正幸 (編) 『国語アクセント論叢』 519-539. 法政大学出版局.
- 藤原与一 (1973) 『昭和日本語方言の記述 —愛媛県喜多郡長浜町櫛生の方言—』三弥井書店.
- 堀悌三郎 (1886) 「伊豫大洲方言」『東京人類學會報告』 1(6): 112-113.
- 宮岡大 (2021a) 「愛媛県大洲方言の動詞尊敬形: 接頭辞 o- に連用形語幹と屈折接辞が後続する形式」第 285 回筑紫日本語研究会・第 51 回九州方言研究会 合同研究会. オンライン, 2021 年 7 月 3 日.
- 宮岡大 (2021b) 「愛媛県大洲方言における動詞尊敬形の形態構造」Morphology and Lexicon Forum 2021. オンライン, 2021 年 9 月 5 日.
- 山口幸洋 (1996) 「愛媛県喜多郡方言の一型アクセント的特質」『人文論集』 47(2): 57-103.
- 山名邦男 (1956) 「四国の音調」『国学院雑誌』 57(2): 24-36.

(宮岡 大)